

2018年3月期第2四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：今期（2018年3月期）の業績予想を上方修正した背景は？

A：主に SE において、好調な上期実績および受注動向が高水準を継続していることを踏まえ、下期・通期予想を上方修正しました。

Q：全体：増配、自己株式取得を発表したが、株主還元についての方針は？

A：中期3カ年経営計画「Challenge 2019」でも示しておりますとおり、株主総還元性向25%以上を目指しています。今期につきましては、通期予想を上方修正したことを受け、過去最高となる1株あたり100円の配当（8月予想：87円）に加え、2017年11月1日から2018年3月31日までの間に、20億円（または30万株）を上限とした自己株式取得を予定しています。

Q：SE：3Q（第3四半期、以下同様）以降の受注が、高水準（2Q：532億円よりさらに増加）が続くと見通す背景は？

A：デバイス別では、メモリー（特にフラッシュメモリー）が引き続き強く、1Qと2Qでは占率が低迷していたファウンドリーも再上昇することに加え、中国メーカーからの受注も堅調に推移すると見込んでいます。

Q：SE：2017年、2018年のWFE（前工程装置市場）の見方と今後の市場見通しは？

A：2017～2018年（暦年）に掛けては、ネガティブな要素は見当たらず、2016年比で+14%程度成長と、高水準の状態が継続すると予想しています。

Q：GA：上期、前年同期比で増収、収益性も改善した背景は？今後の改善見込みは？また、継続性は？

A：2Qの売上増加により、営業利益、営業利益率ともに改善しました。通期では、前期より50億円程度の売上増加を予想し、営業利益の増加を見込んでいます。北米のPODおよびインクの売上に加え、国内でもようやくPOD導入の動きが見られました。収益構造改革を進めており、在庫（国内外）の管理徹底など、今後も継続していきます。

Q：FT：上期、営業利益が8%台（FTにしては低い）に留まったが、この背景は？

A：2Qの（株）SCREEN ラミナテックの設立（7月1日）による費用の負担が主な理由です。

Q：FT：LCD と OLED の受注状況は？また、今後の売上比率などのイメージは？

A：2Q 受注全体の OLED 関連比率は 40%程度(1Q：30%程度)であり、売上構成比率も上昇を見込んでいます。加えて、新規事業領域（成膜など）も増加する予定です。

Q：PE：2Q の営業利益も予想より上振れ、通期売上予想を 114 億円に引き上げた背景は？

A：高機能スマートフォン向けや車載向け PCB 需要が強く、主力の直接描画装置を中心に順調でした。売上増加に伴い、営業利益、営業利益率ともに通期予想を上方修正しました。

備考)

HD：ホールディングス、SE：半導体機器事業、GA：グラフィックアーツ機器事業、FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業、PE：プリント基板関連機器事業

以上